



エコシン

一般社団法人長野県環境保全協会

No.205
2020/1/27
Less CO₂!

写真は、信州で初めて確認された北アルプス鹿島槍ヶ岳「カクネ里」氷河。富樫均氏の撮影。(詳細は四面参照)



謹賀新年
本年もよろしくお願ひ申し上げます

〈年頭のご挨拶〉

パリ協定に基づく温暖化対策開始の年を迎えて

会長 山浦 愛幸



あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、去年は台風 19 号により甚大な被害が発生いたしました。被災された方には、改めて心よりお見舞い申し上げます。

このような災害が頻発する背景には、地球温暖化があると言われ、温暖化は人間活動による炭酸ガスを主とする温室効果ガスの排出が主な要因であるということが気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の報告書で示されています。

2016 年に発効したパリ協定では、「2℃目標 (世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保つ)」と「1.5℃努力目標」を定め、その実現のために「排出実質ゼロ目標 (今

世紀後半に温室効果ガスの人為的な排出と吸収を均衡させる)」も定めています。

今年、パリ協定の目標達成のため、各国が掲げた具体策を実行に移す節目の年です。昨年の IPCC 「1.5℃特別報告書」では、現状のままだと早ければ 2030 年に 1.5℃に達する可能性が高いと指摘され、各国の目標はさらなるレベルアップを求められる状況にあります。

当協会でも、地球温暖化対策の国際的な取組が始まる記念すべき年に、従前にも増して環境問題の啓発活動に傾注していく所存です。

また、企業にも浸透しつつある「SDGs」の取組を通じて、環境・経済・社会の統合的向上に資する活動を目指してまいります。

本年も会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって良い一年になるよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

〈年頭のご挨拶〉 自然と向き合い「しなやかに」付き合っていくために

環境省中部地方環境事務所 所長 秀田 智彦



あけましておめでとうございます。日頃より環境行政に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、台風 19 号による千曲川氾濫等で被害に遭われた方には、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い元の生活の回復を

お祈りいたします。

当所では、堤防決壊直後の 10/13 から、災害対応経験のある職員たちを交代で派遣し、長野県と協力して、被災自治体の災害廃棄物処理体制の早期構築支援等を行ってきました。浸水した家財道具や倒壊した家屋等に起因する膨大な量の災害廃棄物は、片付けないと街の復興作業にかかれないのですが、そのまま埋立したのでは処分場がいくつあっても足りないので、リサイクルするため、可能な限り分別して一旦自治体指定の仮置場に集められます。阪神大震災や東日本大震災をきっかけに災害廃棄物処理計画を策定する自治体も徐々に増えてきましたが、いざ発災となると、なかなか計画どおりに事は運びません。指定外の空地にも無分別の廃棄物がどんどん積まれます。今回は、空地に集積された廃棄物を、夜間に自衛隊や(一社)全国清掃事業連合会の協力で指定仮

置場に搬出する取組がなされました。また、今回のような大規模災害になると、県内の廃棄物処理能力を超えるため、周辺県に広域処理の支援要請を行い、富山県、三重県、愛知県が受け入れてくれました。

近年の豪雨災害の頻発は、地球温暖化の影響とも言われており、今後も同様の事態が発生することは否めません。長野盆地のような山岳地の平野の多くは、河川が長い年月の間に流れる場所をどんどん変えながら、浸食と堆積を繰り返してできたものです。移り変わり行く自然の大きな力の前に、人は本当に無力です。人は自然の一員であり、衣食住どれをとっても、自然の恵みなしには生きられません。自然の摂理を理解しながら、じょうずに付き合っていく術を、一人一人が身に付けることがますます求められています。

長野県環境保全協会には、数多くの地元企業が参加されています。企業活動は、環境に与える影響もさることながら、その顧客の意識を通して社会に及ぼす影響も大きいものがあります。市民一人一人が自然との付き合い方を「自分事」として意識する世の中の実現のために、顧客を含めたサプライチェーン全体の意識変革をリードする等、企業がその「本業」を通して果たせる役割は、業種を問わず、決して小さくないと思います。

第 22 回「信州エコ大賞」募集開始

「信州エコ大賞」は、地球環境保全に尽力している個人、団体、企業などを表彰する企画のもと、協会発足の翌年の平成 11 年に始まり、今回で 22 回目を迎えます。

たくさんの応募がありますよう、皆さまからの推薦を宜しく願いいたします。

過去の実績者、申し込み用紙などは協会 HP を検索願います。

＜推薦方法＞

- 推薦書に必要事項を記入して活動状況の写真など資料を添えて、協会各支部事務局あてに、3 月 27 日（金）必着でお送りください。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。
- 過去に選ばれなかった方の再推薦と、奨励賞受賞者のエコ大賞推薦もできます。
- 表彰は定時総会の席上で行います。

カレンダープレゼント会 各地で開催

第 22 回目となった当協会主催の「カレンダー・手帳のプレゼント会」が、昨年末に県内各地で開催されました。

詳細は 2 月号でお伝えします。



写真は上小支部会場の様子

新春特集 野菜と地球温暖化〈前編〉レタス

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。さて、お米の胴割れ・白未熟粒、りんごの着色不良など、長野県の農産物にも地球温暖化の影響が知られていますが、生産日本一の「レタス」など、野菜にみる温暖化の影響と対策について、昨秋 11 月、塩尻市の長野県野菜花き試験場をお訪ねし、育種部長・小澤智美さんにお話を伺いました。



長野県はレタス生産日本一！

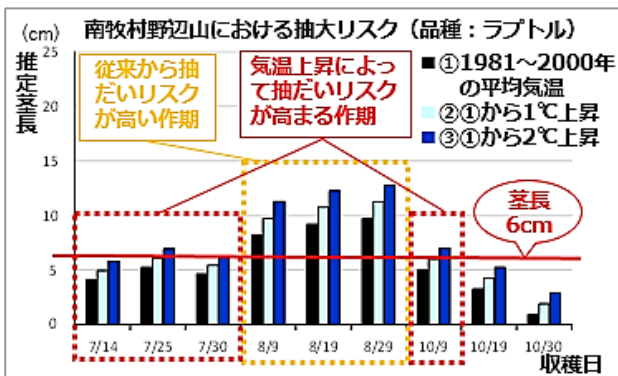
夏冷涼な立地条件を活かして、主に南北佐久・菅平・塩尻・松本で栽培されているレタスは、長野県を代表する高原野菜。生産量は全国一で、特に7～9月は8割以上を占めます。ところが、地球温暖化に伴う気候変動がレタスにも既に影響を及ぼしていると考えられ、近い将来、生産量の減少や品質低下など、生産環境が変化することが懸念されています。

①抽だい

レタスは高温になると、花芽ができて、球の中心の茎が伸びる「抽だい」が起こりますが、茎の長さが6cmを超えると商品価値が下がり出荷できなくなります。



野菜花き試験場では、レタスの茎の長さ、定植以降の日平均気温の積算との関係を、収穫月ごとに測定・分析したところ、比例することがわかり、積算気温から茎長を予測する「抽だい推定式」を作りました。この推定式に、地球温暖化によって今後上昇が予測される気温条件をあてはめ、県内で作付けされている7品種について、地域別・時期別に抽だいの程度を予測しました。



今後は、産地の地図上に、予測される茎の長さを色別に記した「抽だいリスク予測マップ」を作成する予定です。また同時に、抽だいしにくい性質の晩抽性品種の育成を進めています。

写真・グラフご提供：長野県野菜花き試験場

②チップバーン

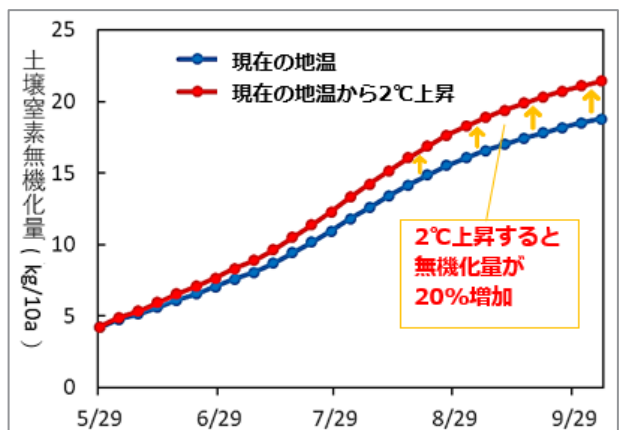
高温乾燥により、レタスの葉の縁が枯れて褐色に変色する生理障害です。これまでの試験で、発生しやすさには品種間差があり、カリウム*の過剰施用がチップバーンの発生を助長すること、発生が多い品種は石灰(カルシウム)濃度が低いことがわかりました。今後は、チップバーンに強い品種の選定や育成などを進めていきます。



*窒素・リン酸・カリウムは肥料の三要素

③地力窒素

(畑の土壤中に存在する有機物に由来する窒素) 温暖化による地温上昇で微生物の活動が活発になると、土壤中にある有機態窒素が分解されて、植物が吸収しやすい無機態窒素が増えると予想されます。レタスは窒素を多く吸収すると、外葉が肥大化したり、葉がよじれたり、品質が低下します。これまでの試験で、主要産地における土壤窒素無機化量の推定式をつくり、地温が2℃上昇すると、土壤窒素無機化量はおよそ20%増加すると予測しました。



また、微生物による分解が進んで失われる地力窒素を維持するため、レタスの畑で越冬ライ麦を育て、草丈30cm前後になったところで土壌にすき込む(緑肥)と、その後栽培した初夏どりレタスの窒素施用量を30～50%程度削減できる(減肥)ことが明らかになりました。今後は、適正な肥料の量を把握し、地域別に施肥指針を作る予定です。

次号につづきます

自然エネルギーってすごい！親子環境学習会が開催されました



「親子環境学習会 自然エネルギー普及シンポジウム」が、長野市と長野市センターの共催で、11月17日(日)に長野市役所第一庁舎の芸術館展示サロンと市民交流スペースで開催されました。内容は、自然エネルギーについてのお話、親子体験工作教室、体験・展示コーナーなどとなっています。工作教室は、国立長野工業高等

専門学校の澤幸造教授の指導によるソーラーカー作りで、親子50組の募集に対して倍近い応募がありました。体験・展示コーナーでは、LEDライトや風力などの発電体験、野外用携帯型ストーブ「キリン君」の実演、ペットボトルロケットの発射実験、水素自動車の展示、アニメ「ようこそ！エコロ島」の上映などが行われました。スタンプラリーも好評で、大勢の親子にご参加いただきました。

(長野市センター事務局長 宮沢博)

「親子で水質調査報告会」を開催しました

第18回「親子で水質調査報告会」が伊那支部の協力で11月23日(土)に箕輪町で開催されました。伊那谷(上伊那・下伊那地域)で活動する企業の親子に、CODのバックテストや臭い、水温などによる身近な河川の水質調査をよびかけ49組120人が参加しました。きれいな河川



を取り戻すことを考えてもらうことを主旨に毎年実施しています。参加親子の皆さんからはレポートを提出してもらい報告書としてまとめました。また、3組の親子に代表して報告(写真)をしていただき、参加者は環境の大切さを改めて認識しました。

(伊那支部 伊那食品工業(株) 尾形徹)

長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員会

11月28日(木)に協会会議室で第9回長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員会を開催しました。委員への委嘱状の交付のあと、山浦会長から、地球上の一人ひとりが温暖化に向けて行動を起こすことの重要性和、センターの使命

をしっかりと果たしていききたいなどの挨拶に続き、平成30年度の事業・決算報告、令和元年度事業計画及び進捗状況の報告と質疑、今後の活動に向けた具体的なご提案など活発な議論が交わされました。(市センター事務局長 宮沢博)

表紙写真 カクネ里氷河

「カクネ里氷河」は鹿島槍ヶ岳北峰直下にあり、2018年に日本の現存氷河の一つになった。写真は、富樫均氏が2017年6月に同氷河の学術調査団として入山したときのもの。富樫均氏は現在、飯綱町のいづな歴史ふれあい館副館長。

会員数

(2019年12月31日)

*特別会員 92名 *一般会員 427名
*賛助会員 201名 *総会員数 720名

行事・イベント情報

▼2/26(水) 支部長会議・理事会

発行元

〒380-0835 長野市新田町 1513-2

□一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL.(026)237-6620 FAX (026)238-9780
E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/

□長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6625 FAX (026)238-9780
E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/

□長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6681 FAX (026)237-6690
E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp
http://www.eco-mame.net/

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。

今月号は、昨年10月の定時総会で開催された信州大学名誉教授鈴木啓助さんによる環境講演会の内容を掲載し増頁となっています。

白馬村に続き長野県も気候非常事態宣言をしました。県民一丸となった取組みが必要です。